

## 第6章 国際交流の推進

スポーツを通じた国際交流は、諸外国との親善と友好をより一層深めることはもちろんのこと、異なる文化や価値観にふれることにより、幅広い視野を育むことができ、青少年スポーツや地域スポーツの発展に大きな効果をもたらします。

本協会では、ドイツや韓国、中国との交流事業を継続実施していくほか、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を国際交流を推進する好機と捉えて、各国代表選手の練習を間近で見学し直接交流することができるよう、オリンピック練習会場の誘致に取り組みます。



### 1 スポーツ少年団のスポーツ交流

#### (1) 日独交流・日中交流

日本スポーツ少年団は、児童・青少年の人格形成に貢献することを目的に活動しているドイツの民間団体「スポーツユエгент」を創設時からお手本としています。この「スポーツユエгент」と交流することにより、スポーツ少年団の原点を探ることができます。

また、青少年スポーツの在り方や、組織体制の違う中国との交流は、私たちが現在行っている青少年スポーツを見つめ直す機会と捉えています。

本協会では、スポーツ交流をはじめ、セミナーや研修プログラム、ホームステイなどによる異文化の体験・交流が今後も推進できるよう、指導者や団員の派遣及び受入事業を積極的に実施していきます。



さらに、この貴重な体験を、多くの団員や指導者に伝え、今後の活動や指導に活かしてもらえるような「発表の場」を検討し、平成29年度から実施します。

<具体的な取り組み>

- ① 指導者及び団員の派遣（毎年2名）
- ② 指導者及び団員の受入（隔年実施）
- ③ 体験発表の機会の創設

取り組み	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
指導者及び団員の派遣	継続実施	→	→	→	→
指導者及び団員の受入	次回受入検討実施	依頼・準備	次回受入検討実施	依頼・準備	次回受入検討実施
体験発表の機会の創設	発表方法の検討	→	実施	→	→

## 2 競技スポーツ交流

### (1) 日中交流・日韓交流

日本体育協会では、2007年（平成19年）に日中両国政府により実施された「2007日中文化・スポーツ交流年」を契機に中国と、また、2002年（平成14年）ワールドカップ・サッカー大会の日韓共同開催決定を契機に韓国と交流事業を開始しました。

この事業は、本協会を通じ、各競技団体に希望を募り、委託事業として開催しています。

合同練習会や交流試合、講習会、スポーツ観戦などのスポーツ活動を、各競技レベルに応じて交流できるこの事業は、県内の競技スポーツを推進する有効な手段と考えています。

今後も、この事業を積極的に活用してもらえよう、全国での実施内容を調査し、加盟競技団体に交流事例などの情報を提供していきます。



<具体的な取り組み>

- ① 未実施競技団体への開催促進

取り組み	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
未実施競技団体への開催促進	過去実施内容の調査	競技団体へ情報提供	→	→	→

### 3 東京オリンピック・パラリンピック

2020年に世界最大のスポーツの祭典、平和の祭典であるオリンピック・パラリンピックが東京で開催されることとなり、スポーツの振興や国際交流の進展など、さまざまな効果が期待されています。

本協会としても、スポーツの振興はもとより、地域活力の向上や国際交流の促進を図る絶好の機会と捉えています。

本県が事前合宿や練習会の会場となり、トップ選手のプレイを間近で見たり、直接ふれあうことができるよう、県や関係団体と連携していきます。



#### < 具体的な取り組み >

- ① 関係団体からの情報収集
- ② 事前合宿等の誘致協力
- ③ 県内選手の強化策実施
- ④ スポーツ意識向上事業の実施

取り組み	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
関係団体からの情報収集	情報収集	→	→	→	→
事前合宿等の誘致協力	誘致協力	→	→	受入体制準備・協力	→
県内選手の強化策実施	支援内容の検討・県内有望選手の選定・財源検討	県内有望選手への支援実施	→	→	→
スポーツ意識向上事業の実施			意識向上事業の検討	事業の実施・協力	→

